

# 汐風を食べてみませんか。

山の恵みが汐風とともに、海の恵みとなってやってきた

## 「伊達な旅キャンペーン」が始まります!

10月から12月までの3カ月間、全国に宮城の魅力を発信することを目的に、「伊達な旅キャンペーン」が開催されます。南三陸町でも、充実した内容で様々な事業を実施しますので、ぜひ皆さんも観光情報の発信にご協力ください。



### 地域ガイドと歩こう! オリジナルプランの旅

南三陸町の自然・歴史・文化はもちろん、地元の人たちと触れ合える旅を地域ガイドがご案内します。自分だけのオリジナルツアーが楽しめます。  
**(要予約)** **通年**

### 古民家で田舎暮らし体験

農漁家民宿「かくれ里」を貸切り、海・山・里の様々な体験を組み合わせ、長期滞在で田舎暮らしを体験できます。**(要予約・2名様からご利用可能)** **通年**

### 民宿に泊まって「漁師鍋」を食べよう! キャンペーン

期間中、対象民宿(9軒)に宿泊したお客さんに、南三陸町の新鮮な魚介を使った漁師鍋を提供します。また、抽選でペア宿泊券が当たるプレゼントも実施します。**(要予約)** **10月~12月**

### 南三陸で「タコを食べよう!」キャンペーン

太平洋の荒波で揉まれた締まった身と、アワビを餌にするため特別に甘い志津川のマグコ。期間中、町内の加盟飲食店では、和洋折衷オリジナリティ溢れるタコ料理が味わえます。**10月~12月**

### みなみさんりく満喫ラリー

町内の産直売所と農漁家レストランを繋いだスタンプラリーです。スタンプを2個集めれば、抽選で磯の香りたっぷりの海藻や里山の恵みの豆類などがぎっしりと詰まった「南三陸うまいもんセット」が当たります。**10月~12月**



### 「秋の収穫と里山トレッキングツアー」

里山で収穫とトレッキング(山歩き)を満喫した後、山頂で里を眺めながらアウトドランチを楽しむプランです。**(ガイド付き)** **10月4日(日)**

### 「田東山行者の道を行く! 秋山トレッキングツアー」

約2時間弱のトレッキング。頂上では地元の食材をふんだんに使用した、特製弁当でひと休み。**(ガイド付き)** **10月17日(土)**

### 「秋の海山! 食べ歩きツアー」

秋のお楽しみイベント、志津川魚市場「志津川湾サケ祭り」にあわせ、お祭り会場やおさかな通りを楽しむプラン。その後、はのんびり里山へ向かいひここの里でそば打ち体験と田舎ごはんを味わいます。**11月8日(土)**

### 「サケの1460日時間旅行」

漁船に乗ってサケ魚を見学した後、河川に遡上するサケの捕獲・採卵から孵化までの一連の作業を見学します。昼食は「南三陸サケ三昧ランチ」をご提供!**(ガイド付き)** **11月22日(日)**

※南三陸時間旅行おススメツアーに参加の場合は、出発日の1週間前までにお申込みください。2名様から申し込み可能です。

## 南三陸ガイドサークル「汐風」誕生!

DCでは素晴らしい活躍で南三陸町の魅力を多くの方々に伝えていただいた「地域ガイド」の皆さんが、このたび会員相互のコミュニケーション、資質向上そして地域振興の発展に寄与することを目的に、ガイドサークル「汐風」を立ち上げました! 地域の魅力は、地域の方々と語り継ぎ、伝えることが出来てこそ更に輝きを増すものです。今年度も既に様々な場面で活躍しています。ガイド業務に興味のある方は、ぜひサポートセンターまでお声掛けください!



# 庄内の風<sup>③⑥</sup>

友好町の山形県庄内町を紹介する情報コーナー

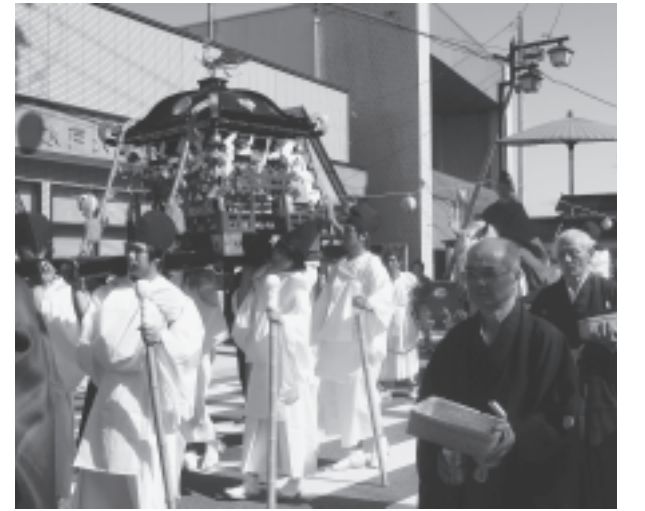
## 余目まつり

余目まつりは、毎年9月14日~16日に行われる余目八幡神社の例祭です。14日は前夜祭、15日が本祭です。16日には三県対抗相撲大会やカラオケ大会等も行われます。

15日の本祭では、余目の駅前から八幡神社までの約2キロメートルの道のりで大名行列が行われます。小学生の子どもたちの可愛らしい手振り奴などは一見の価値があります。それから、この行列には行列を盛り上げる「馬方」と言われる、謡の集団がつかまいます。馬方節を唄っての行列は、全国でも3カ所しかないと言われ、非常にめずらしいものです。

余目まつりの起源は定かではありませんが、古文書によると天保9年(1837年)からと言われて

います。代々受け継がれている習わしや歴史を今に残す余目の秋の風物詩です。このまつりが終わる頃、黄金色に色づいた庄内平野は本格的な稲刈りシーズンを迎えます。



娘夫婦から「老後は一緒に」と声をかけられ、二世帯住宅を建築し、妻とともに孫との会話を楽しみにして、東京からつくば市に転居して早くも五年が過ぎた。つくば市は、茨城県の西部に位置し、北に関東の名峰、標高八七メートルの筑波山を擁し、東京から北東に約五十キロに位置します。筑波、稲敷台地といわれる緑の多い、坂道もなく高齢者向き?の平坦な地形です。四年前に開通した「つくばエクスプレス」では秋葉原まで四十五分と都心から離れた感じがしません。ここつくば市は、癒しのロボット開発や若田さんが活躍した宇宙開発など日本の研究開発センターとされる研究学



### 夢大使 リレー通信<sup>③③</sup>

各地で活躍する南三陸町夢大使の皆さんの声をお届けする「夢大使リレー通信」を連載しています。今回は、前東京歌津会会長の三浦富彦さんです。

夢大使  
三浦 富彦さん  
(つくば市)

園都市です。昭和三十八年に都内にある国の試験研究機関を移転しようとして富士山麓、赤城、筑波、那須の四候補地から選定され、その後、昭和四十五年に学園都市建設法が制定されるなど順次移転が進められました。昭和六十二年に市制が施行され、現在の人口は二十万人を超え、研究機関等は約四百、研究に携わる外国人も数千人といわれる。我が家は、研究学園地区の南端で、小・中学校まで三分、周囲一キロ以内に六つもの公園があり、緑に包まれた住宅地にあります。転居間もないころは、長らく勤務した社会が、いわばタテ社会であり、ヨヨ社会とい

## タテ社会からヨヨ社会へ

この会は、毎月会報を発行しており、私も数回投稿しました。そのなかで南三陸町の景観と特産品を紹介した「ふるさと」の夢大使とあって」と題した拙文が、今秋発刊される「二十周年記念誌」の一隅を飾り、会の歴史とともに保存されることになりました。ヨヨ社会では、タテ社会での過去を語らず、明日を語ることが賢明な生き方と思っています。そのため情報はインターネットのほか、読書や新聞から収集しています。会報に時事川柳を掲載し、月例会に出席し、囲碁の会に参加して楽しんでる昨今です。

配られた地域に馴染めるかと心配しましたが、自分から溶け込むしかないと思い、地域の会に入会しました。この会は、市制施行の翌年に発足し、名前は「みどり会」と若々しいが、六十歳以上が入会資格となつていて、会員は市の形成を物語るかのように全国各地をふるさとした、研究関連の方々が多い。このヨヨ社会への参入には、いくつかの掟があるといわれる。「企業社会の意識・習慣を持ち込まない」、「地域社会は女性主導社会と知るべし」とのルールには特に意を配っています。